

学校の概要

学校名	河北町立河北中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	7	2	21	45
生徒数	216	235	253	7	711	

研究の概要

1 研究主題 「生徒一人一人が生き生きと学び合う授業の創造」

～ 個に応じた指導の工夫を中心として～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科・領域において研究に取り組む。その中で、特に、第1学年の数学科及び英語科においてはT・Tによる指導、第2学年、第3学年の数学科及び英語科においては少人数習熟度別学習の在り方について研究を行う。

(生き生きと学び合う生徒の育成のためには、特定の教科に限定した研究では成果は望めないと考え、全教科・領域で「個に応じた指導」の工夫を中心に授業改善に取り組むこととした。その中でも特に数学科と英語科は、生徒間で習熟度に差が生じやすい傾向にあるため、T・Tや少人数習熟度別学習を取り入れ、より「個に応じた指導」の充実を図ることとした。)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

【目指す生徒像】 しっかりとした「めあて」をもち、見通しをもって学習に取り組む生徒
自分の考えをしっかりもち、表現できる生徒
互いによさを認め合い、学び合う生徒

【研究の仮説】 <めあてをもつ> 生徒の興味を喚起する課題設定の工夫
<自分の考えをもつ> 一人一人が主体的に活動できる場の設定の工夫
<他と学び合う> よさを認め合い、学び合う場の設定の工夫
～ を位置づけた授業を日常化し、それぞれの学習段階で「個に応じた指導」を工夫していけば、生徒一人一人が生き生きと学び合う授業が実現できるのではないかと考える。

【研究の内容・方法】

- ・全教科・領域にわたって「個に応じた指導」に重点を置いて授業改善に取り組む。
- ・数学科及び英語科については、少人数習熟度別学習を中心に個に応じた指導の在り方を研究し、研究主題の達成を目指す。(後述)
- ・研究主題等を受けて各教科毎に教科の特性を生かしたそれぞれの研究課題を設定し、定期的に教科部会を開いて目指す授業の実現のために指導方法等を研究する。
- ・全体での授業研究会(校内授業研究会)は年2回とし、その他に、各教科毎に外部から授業改善アドバイザーを招聘しての授業研究会を複数回(校内授業研究会を含む)行う。
- ・授業研究会の他に、個に応じた指導、習熟度別学習、評価等についての校内研修会を実施する。
- ・先進校視察等の研修を積極的に行い、研修報告会により周知し研修の充実を図る。

《数学科・英語科における少人数習熟度別学習について》

実施内容 少人数習熟度別学習により個に応じた指導の充実を図る。

実施学年・教科 第2、第3学年の数学科、英語科において実施する。

実施方法

- ・少人数習熟度別学習の運営の在り方、個に応じた指導の在り方や有効な教材の開発等について研究を行う。また、少人数習熟度別学習のよさや課題について把握し、よりよい授業の創造に生かす。
- ・前年度中に新2、3年生及び保護者対象に十分なガイダンスを行い、少人数習熟度別学習の趣旨等について理解を図るとともに、生徒にコースの希望調査を実施する。

- ・数学科, 英語科ともに2学級を3学級(基礎, 発展, 応用コース), 3学級を4学級(基礎, 発展, 発展, 応用コース)の少人数習熟度別学級に編成替えする。
- ・コース選択は生徒の希望を最優先にし, 保護者, 教師との十分な相談を経て決定する。
- ・年度途中にコース変更の機会を設定し, より個に応じた学習の充実を図る。
- ・生徒及び保護者対象に意識調査を実施し, よりよい在り方を探る。

平成15年度

【目指す生徒像】【研究の仮説】【研究の内容・方法】は, ほぼ平成14年度と同様に設定し研究を行う。ただし, 平成14年度の成果と課題を受けて, 以下の点について配慮し研究に取り組む。

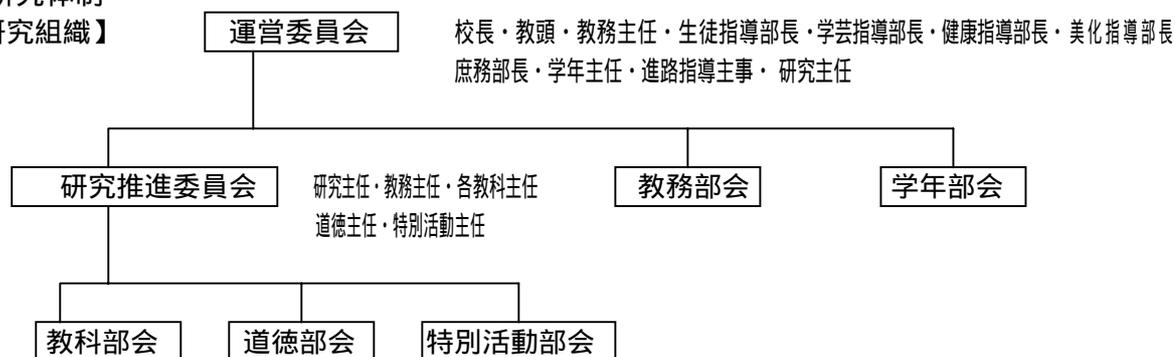
- ・「指導形態の工夫」や「単元構成の工夫」, 「教材の工夫」等, 「個に応じた指導」へのアプローチを明確にし, 全教科・領域で研究に取り組む。
- ・町内小学校との連携を強化し, 町全体で学力向上に取り組む。
- ・研究実践を資料として蓄積するなど, 平成16年度の公開授業研究会に向け準備を進める。
- ・村山教育事務所管内の中学校, 県内フロンティアスクール, 及び町内小学校への授業公開により研究実践を広く広報するとともに, 学校のホームページに掲載し積極的に発信する。

平成16年度

【目指す生徒像】【研究の仮説】【研究の内容・方法】は, ほぼ平成14年度と同様に設定し研究を行う予定である。公開授業研究会を実施し, 研究の成果を広く公開するとともに, 3カ年にわたる研究のまとめを行う予定である。

(3) 研究体制

【研究組織】



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

《研究の進め方等について》

- ・「具体的な生徒像」により, 年度始めに各教科で目指す生徒像を明確に把握し, 研究の方向性を共通理解して研究に取り組むことができた。
- ・抽出生徒の設定は, 具体的な支援が考えやすく, 授業の評価の客観性が高まる点から効果的であった。
- ・第2回校内授業研究会では校外からの多数の参加があり, 意見をいただいて参考になった。
- ・少人数の部会で, 教科の専門家からアドバイザーとして助言いただくことは授業改善にたいへん有効であった。
- ・校内研修会において, 少人数学習, 習熟度別学習のあり方について, 自分たちのこれまでの考え方を覆すような講話を聞くことができた。たいへん有効だった。

《目指す生徒像・研究の仮説等にかかわる具体的な反省》

- ・発展的な学習を行う際に, いくつかの課題の中から生徒が選択して追究する学習を仕組んだところ, 生徒はたいへん意欲的に学習に取り組んだ。(選択性のある課題設定)
- ・学習の初めに学習カードにめあてを記入することにより, 生徒各自が目標をもって学習に取り組むことができた。また, 学習の終わりに学習の成果や感想を書くことにより, 次時のめあてを考えることができた。(授業の導入・終末の工夫と学習カード・プリントの工夫, 活用)
- ・レポート形式で自分が学習したことをまとめたり, 学習プリントに自分の考えを書いたりする場面を意図的に数多く設定し, 発表や教師の指導を繰り返すことにより, 書くことで自分の考えを適切に個性豊かに表現できる生徒が増えてきている。(書いて表現する場面の設定と指導の工夫)
- ・少数意見を生徒の見方を広げたり, 深めたりするための“財産”として大切に扱うことや, 違う意見でなくとも賛成意見や補強意見を自分のことばで発表させることなど, 教師の姿勢や指導の工夫によって, 生徒が自己を表現しやすい雰囲気を作り出すことで自分の思いを表現する

ことができた。(雰囲気づくりの工夫)

- ・学習の途中の段階でミニ発表会を開く，互いに作品を発表し合う，掲示して鑑賞し合うなどの活動を設定し，さらに，相互評価の場を仕組むことによって，仲間のよい点を学び自分の学習に生かす姿が増えてきた。(よさを表出する場及び相互評価の場の設定)
- ・VTRやデジタルカメラを活用し，学習の様子を生徒が客観的にとらえられるように工夫したことにより，より具体的な視点に基づいてよさを認め合ったり，助言し合ったりする姿が見られ，学習の高まりが見られた。(視聴覚機器の活用)
- ・コース毎にレベルの異なるめあてを設定したことにより，それぞれのコースにおいて，生徒は達成感を味わうことができた。(習熟度別学習におけるコースに応じた課題設定)
- ・少人数学習により，生徒一人一人の活躍場面が増え，アットホームな雰囲気の中で自由に意見を述べ合うことができた。(少人数による活躍の場の増加・和やかな雰囲気づくり)
- ・少人数での学習であるため生徒のつぶやきが増え，それを拾い上げて授業に生かすことができた。(つぶやきの把握と活用)
- ・ペア学習，グループ学習を多く取り入れるなど学習形態の工夫により生徒相互の関わり合いが活発になり，学習意欲の高揚と相まって生き生きと学び合う姿が見られた。(学習形態の工夫)
- ・習熟度別学習は昨年度の3C4Tから3C5Tになったことにより，各コースが一層少人数化し，全員に教師の目が行き届き，個に応じた指導がより充実した。(少人数化による効果)

2. 今後の課題

《研究の進め方等について》

- ・授業研究会の回数は適当であるが，教科部会における日常的な授業改善についての話し合いを増やす必要がある。教科部会を増やして年間計画に位置づけていく。(少なくとも月1回，全体研，公開研直前の5月，10月は2回)
- ・次年度は，公開研の持ち方(公開する授業も含めて)を年度初めに吟味し，それに向けての準備も含めて計画的に見通しをもって研究を進めていく。
- ・教科研の際の教科部員以外の参観者が少なかった。教科の違いを超えて学ぶべき指導上の工夫は非常に多い。積極的に他教科の教科研に参加していく。

《目指す生徒像・研究の仮説等にかかわる具体的な反省》

- ・声に出して発表することに抵抗を感じている生徒が多く，返事をしなかったり，声が小さかったり，単語のみで答えたりという姿が目立つ。声に出して表現する機会を増やすとともに，全教科領域で共通理解のもとに発表の仕方を指導する必要がある。(表現の場の設定と発言の仕方の指導)
- ・他の生徒のよさを学んでも自分の学びに生かせない生徒も多い。他に学んで自己に生かすことが本当の学び合いであり，自己に生かす場をいかに設定するか。(他のよさを自分の学びに生かす場の設定の工夫)
- ・習熟度別学習において，設定した課題がコースの実態に合わない場合があった。(適切な課題設定)
- ・少人数(グループやペア)の中で発表するなど，発表しやすい場の設定を工夫する必要がある。(発表しやすい場の設定の工夫)
- ・自分の席で自由につぶやく場面，順番に発言する場面，挙手して発言する場面など，発言の場面設定を多様に工夫する必要がある。(発言の場の工夫)
- ・基礎コースにおいて学習内容を定着させる活動が多くなってしまった。自分の考えや感想をまとめたり発表したりする活動場면을意図的に設定する必要がある。(基礎コースにおける表現の場の工夫)
- ・特に基礎コースにおいては，リーダーとなる生徒が少ないため，教え合い学習を十分に展開することが難しかった。(基礎コースでの学び合う場の工夫)
- ・習熟度別学習では基礎的な内容の定着や，数多くの問題に挑戦することを重視するだけでなく，生徒の考えの交流によって理解を深めたり，英語を用いて生徒同士が交流したりする場면을積極的に仕組んでいく必要がある。(学び合う場・交流する場の設定)
- ・新しい単元に入る前のレディネステストなどを工夫し，生徒がより適切にコースを選択できるよう支援する必要がある。(事前テストの工夫によるコース選択の支援)
- ・各単元の学習におけるコース別の学習時間の配分と内容を十分に吟味し，生徒に事前に提示して適切なコース選択の支援を行う必要がある。(学習計画・内容の提示によるコース選択の支援)
- ・同じコースの中でも習熟度に差が出てきている(特に発展コース)。教え合いの場面を仕組んだりしながら一層きめ細かな指導を工夫し，生徒一人一人の実態に応じた指導を行う必要がある。(コース内での習熟度差への対応)

【平成16年度の研究の重点課題】

- ・ 場の設定や発言の仕方の指導を工夫し，声に出して表現する力を高める。
- ・ 他の生徒に学んだよさを自分の学習の高まりに生かせるように場の設定や指導方法を工夫する。
- ・ 公開研究発表会に向けて，研究の年間計画を具体的に立てて研究を進める。

《習熟度別学習について》

- ・ 生徒がより適切なコースを選択できるように，事前テストを工夫するなど支援を充実させる。
- ・ 少人数学習と習熟度別学習のそれぞれのよさが生かせるよう，年間指導計画の中に効果的に位置づけて，個に応じた指導を一層充実させる。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 「教研式全国標準診断的学力検査」(NRT)を4月中旬に実施した。1年生は国・社・数・理の4教科，2・3年生は英語も合わせて5教科について実施した。本校では，平成13年度から，第1学年の数学科と英語科においてT・Tによる指導，第2・第3学年の数学科と英語科において少人数習熟度別学習を実施してきている。NRTの学力偏差値を学力の一側面をとらえる手だてと考えるとすれば，平成13年度と平成14年度の結果を比較してみると，数学科，英語科において上昇が見られ，平成14年度と平成15年度を比較すると，ほぼ同様の値であった。個に応じた指導の工夫が一定の成果を示していると考えられる。
- ・ 少人数習熟度別学習についての意識調査を，第2・第3学年の全生徒(平成15年10月実施)及び保護者(無作為抽出61名対象，平成15年12月実施)対象に実施した。その結果，生徒については約67%が「学習に役立っている」という肯定的な評価をしており，否定的な評価をした生徒は約4%であった。平成14年度と比較すると，特に，数学科について肯定的な評価をしている生徒が増加している。また，平成14年度同様，保護者からもたいへん肯定的に受け止められている。フロンティアスクールとしての研究成果の普及
- ・ 実施した授業研究会及び授業公開(「参加対象」：案内状の送付先)

日 時	場 所	名 称	参 加 対 象
H15. 6. 2	河北中学校	第1回校内授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
6.13	〃	授業一般公開	河北町民
9.21	〃	授業一般公開	河北町民
10. 3	〃	美術科・理科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
10. 8	〃	技術・家庭科授業研究会	県内中学校教員
10.15	〃	音楽科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
10.21	〃	国語科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
11.18	〃	保健体育科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
11.19	〃	第2回校内授業研究会	村山地区フロンティアスクール職員，西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
12. 2	〃	美術科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
12.17	〃	国語科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員
H16. 1.21	〃	社会科授業研究会	西村山地区中学校職員，河北町内小学校職員

平成16年度については，今年度と同程度の授業研究会及び授業公開を予定している。

第2回校内授業研究会では他校から多数の参加を得て，事後研究会における話し合いや寄せられた感想等において数多くのご意見，ご感想をいただいた。

- ・ HPについては，昨年度立ち上げ，研究の成果等を掲載し発信している。今後も順次更新していく予定である。(HPのURL・・・<http://www.hinanet.ne.jp/~kahoku-jh/>)

【新規校・継続校】

- 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】

- 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】

- 少人数指導 T・Tによる指導

その他

【研究教科】

- 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

- 有 無